

大黒柱一本から生まれるCSVエコシステムの構築

Building a CSV ecosystem born from a “DAIKOKU-BASHIRA”

西川 義寛¹⁾, 内平 直志¹⁾
NISHIKAWA Yoshihiro¹⁾, UCHIHIRA Naoshi¹⁾
y_nishikawa@jaist.ac.jp, uchihira@jaist.ac.jp

1) 北陸先端科学技術大学院大学

1) Japan Advanced Institute of Science and Technology

キーワード：林業，CSV，価値共創，エコシステム

1. 研究の背景と目的

日本は国土の約 70%を森林が占める森林先進国であり，森林がもつ公益的価値は，75 兆円を超えるとも言われている．一方、豊富な森林資源を有するものの，小規模な零細森林所有者が大半を占める林業界の生産性は低位に留まっており，林業の成長産業化が大きな課題である．

そこで本研究では，実存する A 社－林業，製材業，住宅業を兼営－を題材に，林業を中心としたエコシステムの構築に関し，CSV（Creating Shared Value）に基づく理論的モデルを通じ，実務上の問題解決に資する提言を目的とした．実際の研究では，創業 140 余年にわたる A 社の経緯，実情を価値創造，およびエコシステム構築の観点より分析した上で，林業を営む事業体の CSV エコシステム構築にかかる要件を推察した．

2. 研究内容

本研究は，以下の 3 点によって構成されている．

先行事例調査：林業にかかるエコシステム構築事例を，①インフラ集約化，②先導的取組，③その他特徴的な事例，④森の CSV 活動の別に調査し，その要件について分析した．

事例研究：企業内部の視点より，A 社 CSV における共通価値の象徴的活動である大黒柱ツアーを軸に，林業における六次産業化，およびサービス化の経緯，実情と CSV に基づくエコシステム構築の相関関係を分析した．

アクションリサーチ：A 社における CSV に基づく企業戦略を体現する一環として，新規事業開拓，および既存事業強化に資するアクションリサーチを行ない，林業における価値共創の必要要件を分析した．

3. 結論

本研究では，A 社の事例研究，アクションリサーチを通じ，林業における六次産業化，およびサービス化の経緯，実情を価値共創，および CSV の文脈より明らかにした．結果，林業会社においては，①六次産業化，およびサービス化がエコシステム構築の基幹となること，②多様な価値に基づく幅広い市場参加者との価値共創が成長，発展のための必須要件であること，③CSV における共通価値を軸とした，既存の価値共創のブラッシュアップと，新たな価値共創の開発がエコシステム拡大に貢献することを提示している．

4. 本研究の意義

本研究では、上記結論を理論的に説明した CSV エコシステム構築モデルの提示を通じ、以下の理論的含意を示すことで、林業の成長産業化の実現と、更には林業の現場でもある地域の創生に向け価値ある一石を投じていると考える。

- 企業内における共通価値の創造プロセスについて、知識創造活動のメタモデルとしての SECI モデルを CSV の発展という具体的事象に適用することで、メタモデルの新たな活用方法を提示した。
- CSV における社会的価値と経済的価値が相関する要件、および推移の状況を、共通価値の変容とエコシステムの形態を用いて提示することで、CSV の実現に際し実効性のある視座を提供した。

